

令和3年度第2回四街道市地域公共交通会議に係る意見等

(1) グリーンスローモビリティ実証実験の中間報告について

発言者	意見・質問概要	意見に対する考え・質問に対する回答
芦沢委員 (有識者)	資料1のP5検討事項の定期路線運行、「もねの里モール」への乗り入れは下記3点から適切だと考える。 1. 前回の実証実験より利用者が少ないが、「もねの里モール」の停留所がなく、なったことと予約の煩わしさが原因の可能性はある。 2. 前回の実証実験では、1、2丁目を通るルートの利用者が40%いたが、今回は3丁目居住の利用者が全体の76%を占めており、大きな偏りがある。原因は1、2丁目居住者は「三徳」までなら徒歩が多く、3丁目居住者は「三徳」までも直線距離で1km程度あるので、グリスロを利用するのではないか。 3. 運行経費に対して、1人あたりの経費が高額となっているため、利用者の大幅な増加策と経費削減が必要である。	定期定路線については、前回の実証実験で団地内を網羅したルートの必要性や積み残しの発生が課題となったため、今回の実証実験は、地区内のどの道も走行可能な車両による。デマンド型乗合運行にて実施しています。 「もねの里モール」への停留所設置については、千代田地区から距離があり、バッテリーの消費が多くなると思われ、利用者数も制限されることが考えられます。関係機関との調整を行うとともに、今後実施する会員へのアンケートや、交通会議での意見を踏まえ、今後、よりよい運行方法を検討していきます。
芦沢委員 (有識者)	路線バスへの乗り継ぎ利用者は、全体の3%程度考えられるため、増加策の検討を期待する。	イベント等の実施を行うとともに、今回の実証実験の背景や必要性について、周知に努めます。
芦沢委員 (有識者)	予約方法の改善及びドアtoドアでの運行を期待する。	ドアtoドアでの運行は、運行距離が長くなり、バッテリーの消費が多くなると思われ、利用数も制限されることが予想されます。また、自宅から150m以内に停留所を設置しているため、利用者から不便との声は特にいただけていないことから、4年度当初は現在の運行方法で実施します。
芦沢委員 (有識者)	もねの里モール付近の大型店へのアクセスを期待したい。	「もねの里モール」への停留所設置については、千代田地区から距離があり、バッテリーの消費が多くなると思われ、利用者数も制限されることが考えられます。関係機関との調整を行うとともに、会員へのアンケートや、交通会議での意見を踏まえ、今後、よりよい運行方法を検討していきます。
芦沢委員 (有識者)	住民アンケートをしてみてもどうか。 ・今回の実験で利用しなかった理由(停留所、運行日、予約の抵抗感の原因) ・ドアtoドアへの期待 ・路線バスへの乗り継ぎ利用への希望条件	実証実験に対する意見や、今後のバスの利用等についての意見を把握するため、会員向けにアンケートを実施する予定です。
高田委員 (東日本旅客鉄道(株)千葉支社長又はその指名する者)	地域の方のためにも、より一層、利便性が向上するように改善できるところは改善し、運行を続けていただければと考える。	そのように努めます。
佐藤委員 (関東運輸局千葉運輸支局長又はその指名する者)	資料1のP5「運行方法等の変更を検討する必要があると考えている」とあり、「実証実験の検証を踏まえ」とあるが、実証実験後に運行方法等を検討する際に、関係者間で協議、調整を行っていくほかに許可等の手続きが必要な場合もある。変更を検討する際は十分期間に余裕をもって相談してほしい。	そのように努めます。

発言者	意見・質問概要	意見に対する考え・質問に対する回答
鈴木委員 (公募委員)	順調な滑り出しと思われる。但し、主目的を路線バスの利用促進としているが、対象地域が狭く限定されている等から、当初より難しさが予想されていたのではないかと。 ただ、路線バスとの連携を強化した「もねの里モール入口」停留所の新設は有効と思われる。また、グリスロ利用で施設の割引等の連携ができるとさらに有効になると思う。	今後も、バス事業者との連携による、利便性の向上に努めてまいります。
鈴木委員 (公募委員)	今後、比較的トリップ長の短い路線バスとグリスロ停留所との接続を工夫できれば路線バスの利用促進も図れることが期待できる。 同様に地域内の短距離トリップを分担するグリスロと中距離トリップの路線バス、長距離トリップの路線バスとの接続位置、経路に工夫できれば、移動手段の適正な分担による地域の活性化が図れる可能性がある。	路線バスとの接続については、さらに検討を進めるとともに、実証実験を行う背景や目的等に関し、住民への周知に努めてまいります。
平委員 (公募委員)	高齢者、特に免許返納後の高齢者が、買い物や医療機関に行くのに利用されていて非常に良いと思われる。	

(2) その他

発言者	意見・質問概要	意見に対する考え・質問に対する回答
平委員 (公募委員)	市内循環バスヨッピーの補助金1500万円/年は高額と思われる。どのような人が利用しているかといった分析や、さらに免許返納高齢者が利用しやすい路線の再検討が必要と思われる。	市内循環バスヨッピーは、市内の公共交通空白地域の解消を目的とした、路線であることから、市が経費の不足分について、補助しているものです。コロナ禍で利用促進の効果が期待できない中、千葉内陸バス(株)様と補助金の縮減に向けた、協議(広告収入等)を行っております。